

平成24年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	姉妹都市・友好都市交流事業						担当部	市民産業部				
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	生活交流課				
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	交流係				
	総合計画 分野別計画	主目的	1 市民生活		2 交流		3 姉妹都市・友好都市などとの交流を深める						
		副目的											
	予算区分	款	2		項	1	目	3		大	3	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金交付要綱											
	実施・運営方法 ※費用合計に占める 経費の内訳(割合)	直接実施・ 運営	74.5 %			委託	25.5 %		助成	0 %			
	目的 (対象をどの様な 状態にするのか)	姉妹都市・友好都市との国際交流に関心を持つ市民を対象に、姉妹都市・友好都市との交流を促進し、友好関係を図る。特に将来につながるよう若い世代の交流を促す。											
	内容 (手段)	<p>・ワイアンドット市との交流はH23から隔年で派遣・受入れを行うものとした。</p> <p>・タンザニアへの派遣事業はH23より見直しのため中止としている。</p> <p>H23は、ワイアンドット市へ中学3年生12名、引率1名を派遣。 安養市へは、小学5、6年生10名、引率2名の派遣と受入れ事業を予定していたが、東日本大震災の影響を懸念した安養市からの申し出により中止となった。</p> <p>また、市の派遣事業以外では、『小牧市姉妹都市、友好都市等交流事業助成金』交付の実績無し。 【直接経費の内訳で主要なもの】 国際交流事業委託金 決算額 4,006千円</p> <p>※下記、その他財源の内訳⇒国際交流事業参加者負担料 1,205千円</p> <p>H24は、ワイアンドット市訪問団(中学生7名・引率2名)受入れを実施予定。派遣はH25に実施予定。 安養市へは、小学5、6年生10名、引率2名の派遣と受入れ事業を実施中。</p> <p>※職員は派遣事業に関する連絡手配、受け入れ時の行程作成から添乗等一切の業務を行っている。</p>											
受益者負担	児童生徒は、派遣事業の諸経費の3分の1を、一般市民(成人)は3分の2を負担。												

		単位	H21決算額	H22決算額	H23決算額	H24予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	9,993	17,985	5,082	5,095	
		正職員	従事者数	人	2.00	2.00	2.00	1.00
			人件費	千円	10,638	10,638	10,638	5,319
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計		千円	20,631	28,623	15,720	10,414
対前年比		%		138.7	54.9	66.2		
コスト	財源	一般財源	千円	14,446	18,995	11,986	10,123	
		国・県支出金	千円	3,959	3,522	2,529	0	
		その他財源	千円	2,226	6,106	1,205	291	

業	活動指標名	単位		H21	H22	H23	H24
	績	ワイアンドット市派遣事業	人	目標	11	30	13
実績				11	29	13	—
	ワイアンドット市受入事業	人	目標	—	8	—	9
			実績	—	8	—	9
	安養市相互交流事業	人	目標	12	12	12	12
			実績	0(中止)	12	0(中止)	12
	タンザニア派遣事業	人	目標	10	15	—	—
			実績	10	11	—	—
成果指標名		単位		H21	H22	H23	H24
	事業参加者	人	目標	33	75	25	21
			実績	21	75	13	21

事業の自己評価	平成23年度の実施結果	事業の達成状況	姉妹都市等との交流が将来につながるよう、学生を中心とした交流を実施した。安養市相互交流事業が中止となったため、参加人数については目標数を達成しなかった。
		事業実施における課題等	各派遣事業における観光要素が多分にあり、予算の節減の余地がある。
		事業を縮小・廃止したときの影響	市民生活に影響が及ぶことではないが、各都市と姉妹都市・友好都市の関係に至った経緯があり、相手市(相手国)の意向を尊重することが重要である。
今後の事業の方向性	方向性の判定	現状維持	
	判定理由	派遣・受入れにより貴重な経験を得ることができ、市民レベルでの交流にもつなげていけるため、参加者の満足度は非常に高く、今後も実施をしていくに値する事業である。	
	改善案等	<p>※前提として、本市並びに相手市の経済状況等を考慮しながら交流は継続。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワイアンドット市(以下ワ市という。)との交流については、今後も隔年の派遣及び受入れとするが、派遣の際の日程については、ワ市での滞在をより長くすることで、姉妹都市としての絆を深めるべく、事業参加者のワ市との交流やワ市についての理解を促す事業としていく。 ・観光要素の強いタンザニア派遣事業については、今後の事業のあり方を見直す。 ・安養市との相互交流事業については、基本的には現状どおり事業を継続するが、ソウル等での観光部分を省き、友好都市である安養市での滞在(ホームステイ)をより長した日程とした。 	

二次評価	方向性の判定	判定理由
	現状維持	一次評価のとおり。参加者の満足度だけでなく、参加者の体験などがより多くの市民に伝わり、交流の輪が広がるように努めること。